

# 球磨村 おがわ瓦版

令和3年8月10日  
編集発行 宮原 修  
090-9585-8894

阿弥陀さん7月23日



お地藏さん8月2日



阿弥陀さんは公民館、お地藏さんは椎谷供水場で、毎年婦人部が豆を炊きおもてなしをしている。



長年続く小川班の阿弥陀さんとお地藏さん祭り



## 地域に笑顔と元気が "はるかのひまわり" 満開に

5月18日に渡小学校1、2年生と小川住民が一緒になって頂いた「はるかのひまわり」の種が生育し、2m以上になり満開となった。住民は観賞に訪れ各々写真に収めていた。小川豊明班長も「子どもたちをはじめ多くの人に大きく咲いたひまわりを見に来て元気になってほしい」と話していた。

きれいな「おがわ」に

小川班美化活動

小川班は活力ある共助の村づくりとして、7月25日午前7時30分より清掃活動を実施した。

毎年この時期に実施していたが、昨年は豪雨災害で出来なかった。

作業は班内の村道沿線、公民館周辺の草刈りや除草を行った。併せて婦人部による、毎月2回椎谷供水場(しいだん)の清掃も行なった。

このあと、渡小学校前の通学道路、運動場と体育館周辺の草刈り作業を行なった。

### 一勝地駅清掃ボランティア活動

球磨村ボランティア連絡協議会

球磨村ボランティア連絡協議会(大瀬幸信会長 会員182名)は7月30日、JR肥薩線一勝地駅にて駅構内及び周辺の清掃を実施した。作業は構内天井のクモの巣除去、花壇の草取り、線路敷



駅構内を清掃する会員



椎谷供水場の清掃



道路の除草作業をする住民

きの草払いを行なった。  
一勝地駅名譽駅長の橋詰兵士郎さんは「汽車は通れなくなっても一勝地駅は村の玄関口。ボランティア協議会の皆さんには毎年きれいに清掃して頂き感謝しています」とお礼を述べた。

球磨弁! 36

わかるかな?

ちいっと 少

おわる 生える

んにゃ いや違

ほめく 蒸し暑い

うちくやす 壊

ひだるい 腹が空

よか? いい?

あつとで あるだろうから



### 前号(7月)の訂正

一面の「県南豪雨から一年」の中、人口と世帯数の変動の解説は、7月1日現在、前年同月比人口215人(6.1%)、世帯数70世帯(4.8%)の減少に訂正します。

球磨村観光案内人の会総会開催

7月26日、球磨村(富永知敬会長 会員13名)は石の交流館やまなみにて令和3年度同総会を開催した。

総会は、前年度の事業報告並びに収支決算報告と事業計画・収支予算案を審議し承認された。



観光案内人の会総会

今年度の事業計画では、球磨村七十九集落巡り」「球磨村の棚田22選」をガイドブックにして、村内5地域(高沢、渡、三ヶ浦、神瀬、一勝地)を巡り、集落の自然や歴史、観光産業などの研修をする。また案内人の会員だけでなく、幅広い層を対象に気軽に参加できる勉強会を開催していくことも了承された。

人吉環境未来サロン

地球環境をを考えてみよう

8月8日、幼児から小学生を対象としたエコ体験を村衛門クラブト樹想館(人吉市鶴田町)で開かれた。このイベントは地球環境をよくすることを目指し活動しているもので、くらしデザイン研究所MAMが主催。会場には22人が来場し参加体験した。



エコバッグ作りを楽しむ参加者

(2) 参加者は、新聞で作るエ

コバッグや太陽で色が変わるUVストラップ作り・不思議な絵の具でお絵描きなど環境にやさしいアイテムを作りながら楽しく、それぞれのブラスに挑戦していた。新聞で作るエコバッグ作りは球磨村渡の宮原氏が指導、8人の親子が体験した。樹想館の永田賢太郎さん(51)は「子供たちに木の大切な役割や木材の活用法などを知ってもらい身近に感じ取ってもらえたら。又これからの環境問題にどう取り組むかを少しでも前へ進めていきたい」と話していた。



新聞紙で作るエコバッグ



ペットボトルのフタを使ったアクセサリ



太陽で色が変わるUVストラップ



球磨村内外の主な出来事

- ・国内コロナ感染さらに拡大
- ・7/23 ~ 8/8 東京オリンピックピック2020開催
- ・球磨村、人口・世帯数減少率全国一
- ・8/1 令和2年7月豪災害犠牲者追悼式
- ・7/5 千寿園解体工事始まる

思いのままに

7月16日人吉新聞の記事に「希望のピアノの軌跡」がYouTubeで配信されていることを知り、早速パソコンで開いて見ました。

16分間の再生時間でしたが、早々から胸が熱くなりました。改めて多くのボランティア団体の方々の支援活動に感謝しかありません。

今、渡に子供たちの姿はありませんが、渡小学校は小川地域内に所在し、地域住民は特に身近に感じています。やはり子供たちの姿や笑い声が聞こえないのは寂しいと...

私は渡小学校の卒業生ではありませんが、小川地区に住んで36年になります。それでもどこか親しみを感じ、自分に何かできることはないかといつも思っています。(宮原)



相田みつを詩集より